

スタンダード薬学シリーズ 私的正誤表

スタンダード薬学シリーズ(日本薬学会編、東京化学同人)について、個人的に作成した正誤表。自分が読んだ範囲で、自分が誤りではないかと考えた箇所のみ記載。すべての誤りを網羅しているわけではないし、訂正の正確さも無保証。学習の進行により随時追加。

2 物理系薬学 I. 物質の物理的性質

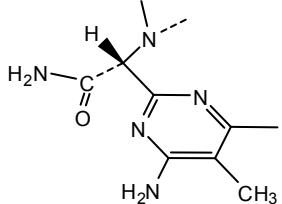
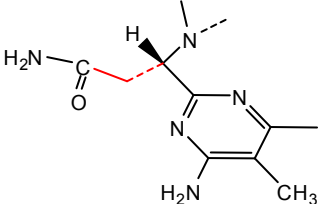
第1版 第2刷 2005年5月2日 発行

ページ、箇所	誤	正
p6、式(1・10)、式(1・11)	$\frac{me^4}{8\epsilon_0^2 h^3 c}$	$\frac{\mu e^4}{8\epsilon_0^2 h^3 c}$ μ は換算質量
	解説:6 ページ7 行目のリュードベリ定数 $R = 109678\text{cm}^{-1}$ は式(1・9)中の値で水素原子での数値。これは電子の静止質量(4 ページ下から 2 行目)と陽子の静止質量から得られる換算質量 μ を用いて計算されている。式(1・10)と式(1・11)を式(1・9)と比較しているので前2つの式では換算質量を使うのが正しいだろう。電子の静止質量 m を用いて計算されるリュードベリ定数は $R_\infty = 109797\text{cm}^{-1}$ 。	
p14、図 3・4	d_{xy} 、 d_{yz} 、 d_{zx} 、 $d_{x^2-y^2}$ 軌道	図中の正負が逆
p38、2 行目	ψ_A	ψ_-
p39、下から 2 行目	σ_{2s}^*	σ_{2p}^*
p43、図 8・10		2s 軌道から s_{2pz} 軌道への点線を消去、2p 軌道から s_{2pz}^* 軌道への点線を消去。
p47、図 9・4	$\psi_3 = \pi^*_{+}\pi^*$ $\psi_4 = \pi^*_{-}\pi^*$	$\psi_3 = \pi^*_{-}\pi^*$ $\psi_4 = \pi^*_{+}\pi^*$
p51、本文右、希ガスの沸点	He <u>-270</u>	He <u>-269</u>
p54、本文左、表タイトル	希ガス分子の <u>大きさ</u> と沸点	希ガス分子の沸点
p60、図 17・1	解説:この図に誤りはないがコメント。電磁波エネルギーの流れの密度を示すポインティングベクトル \mathbf{S} は下のよう _に 書けるので、図中の電磁波は X 軸負の方向に進行している。 $\mathbf{S} = \frac{1}{\mu} \mathbf{E} \times \mathbf{B}$	
p66、下から 4 行目	双極子間の距離が大きくなると、	電荷間の距離が大きくなると、

p67、式(18・1)	$\mu_{av} = \frac{\mu_p^2}{3k_B T}$	$\mu_{av} = \frac{\mu_p^2}{3k_B T} \frac{E}{E}$
p80、本文左、蛍光色素の構造	X= <u>B</u> :エオシン	X= <u>Br</u> :エオシン
p82、下から8行目	<u>-I</u> 、 <u>-I+1/2</u> 、 <u>……</u> 、 <u>I-1/2</u> 、 <u>+I</u>	<u>-I</u> 、 <u>-I+1</u> 、 <u>……</u> 、 <u>+I-1</u> 、 <u>+I</u>

3 化学系薬学 I. 化学物質の性質と反応

第1版 第4刷 2007年3月19日 発行

ページ、箇所	誤	正
p69、1行目	ii)多重結合について	iii)多重結合について
p92、表 28・1	チオ硫酸 H ₂ SO ₃ における硫黄の酸化数は+VIと-IIである(p93 参照)。酸化数+IV の欄に記載するのは不相当と思われる。	
p100、15行目	Ni(II)や Co(III)のように	Ni(II)や Co(II)のように
p103、図 30・3 の(遷移元素)	V ^{IV}	V [±]
p120、図 36・4 の活性錯体、ピリミジン環近傍の構造		

5 健康と環境

第1版 第3刷 2008年3月15日 発行

ページ、箇所	誤	正
p32、NPRQ 計算式	タンパク質燃焼による O ₂ <u>発生量</u>	タンパク質燃焼による O ₂ <u>消費量</u>
p131、灰色網掛け計算式	$\text{死亡率} = \frac{\text{死産数}}{\text{出産数 (出生数 + 死産数)}} \times 100$	$\text{死産率} = \frac{\text{死産数}}{\text{出産数 (出生数 + 死産数)}} \times 100$
p180、3行目	<u>西大西洋</u> 地域において	<u>西太平洋</u> 地域において
p287、17行目	+ 2H	+2H [±]
p289、10行目	実験データとしては破線で	実験データとしては <u>実線</u> で
p290、図 66・2 の右側縦軸(プロビット)の目盛	7(<u>99.7</u>)	7(<u>97.7</u>)
p335、8行目	その <u>波長</u> はその物体の絶対温度に反比例しているの <u>で</u>	その <u>放射強度極大の波長</u> はその物体の絶対温度に反比例している <u>ので</u>

p411、下から 10 行目	必要換気量 = $\frac{M \times 100}{C_s - C_o}$	必要換気量 = $\frac{M}{C_s - C_o}$
----------------	------------------------------------------	-------------------------------